

都市再生整備計画 事後評価シート

安達駅周辺東地区

平成30年5月

福島県 二本松市

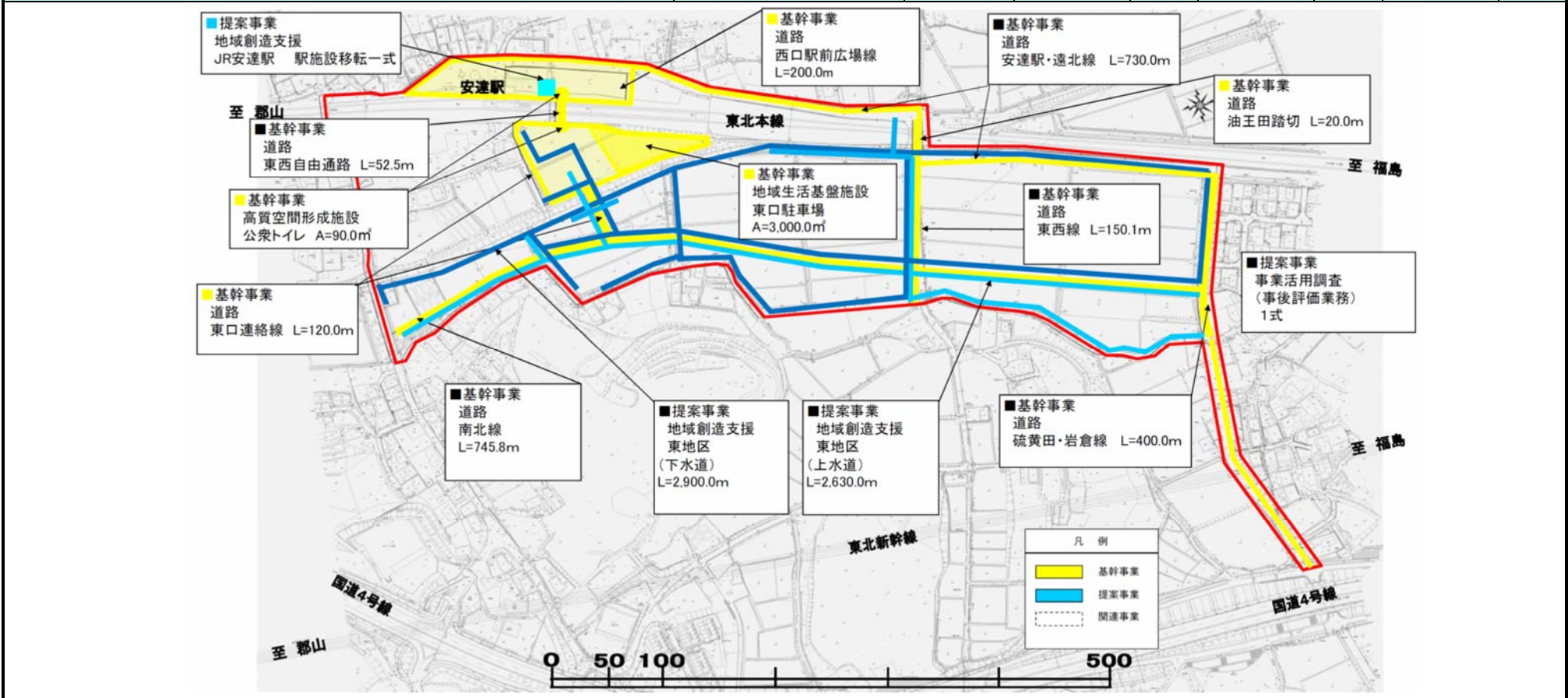
様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	福島県		市町村名	二本松市		地区名	安達駅周辺東地区			面積	15ha	
交付期間	平成24年度～平成28年度		事後評価実施時期	平成29年度		交付対象事業費	2,732百万円	国費率	0.4			
1) 事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		基幹事業	事業名 道路事業(東西線、碓黄田・岩倉線、油玉田踏切、東西自由通路、安達駅・遠北線、南北線、東口連絡線、西口駅前広場線)、地域生活基盤施設(東口駐車場)、高質空間形成施設(公衆トイレ)								
			提案事業	地域創造支援事業(上水道)、地域創造支援事業(下水道)、地域創造支援事業(駅施設の移設)								
	当初計画から削除した事業		基幹事業	西口駅前広場	削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響				
			提案事業	なし								
	新たに追加した事業		基幹事業	安達駅・遠北線 西口駅前広場線 東口駐車場 公衆トイレ	交通機能の強化を図るため、事業を新たに追加 地域生活基盤施設事業から移行 東口連絡線の道路事業を一部組み替え より魅力ある駅前空間の形成を図るため、事業を新たに追加			指標1(交通アクセス満足度)に関係するが、指標及び数値目標は据え置く 事業の組み替えであり、影響なし 事業の組み替えであり、影響なし 指標2(駅利用満足度)に関係するが、指標及び数値目標は据え置く				
			提案事業	駅施設の移設 JR安達駅	より魅力ある駅前空間の形成を図るため、事業を新たに追加			指標2(駅利用満足度)に関係するが、指標及び数値目標は据え置く				
交付期間の変更		当初	平成24年度～平成28年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響							
		変更										
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標	1年以内の	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期	
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み			
	指標1	交通アクセス満足度アンケート調査	%	61	H23	41	H28	—	31	○	あり なし	駅前広場を含む駅周辺の道路整備により、安達駅周辺東地区の回遊性が向上し、円滑な交通処理が行われるようになった。また、歩行者にとっても安全・安心に通行できる歩道等が確保されたことから、交通アクセスについて不満度が低下し、高い満足度が得られた。
	指標2	駅利用満足度アンケート調査	%	57	H23	37	H28	—	29	○	あり なし	東西の駅前広場、自由通路、東口駐車場および公衆トイレ整備により、東西両側から直接駅にアクセスできるようになった。このことにより、駅の拠点機能が強化され、利用者の利便性が向上したことから、駅利用に関して不満度が低下し、高い満足度が得られた。
	指標3	西口駅前広場渋滞調査	m	100	H23	70	H28	—	45	○	あり なし	従前、駅に出入りできるのは西口だけで、西口駅前に駅送迎などの車両が集中するとともに、広場が未整備であったため、停車車両が路上にあふれ、ピーク時には慢性的な渋滞状況を呈していた。 東西の駅前広場整備及び自由通路整備により、送迎等の車両が東西に分散するとともに、駅前広場内に停車できるようになり、市道の交通渋滞が緩和し、渋滞長が減少した。
指標4									○	あり なし		
3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標	1年以内の	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期	
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度※1	達成見込み			
	その他の数値指標1	地区内新築件数	件	0	H23				16		駅の利便性向上、駅周辺東地区の道路・上下水道等の基盤整備の進展により、地区内における年間新築件数や開発許可件数が増加した。	
その他の数値指標2	地区内民間開発許可件数	件	0	H23				7				
4) 定性的な効果発現状況												
5) 実施過程の評価	実施内容			実施状況				今後の対応方針等				
	モニタリング	なし		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった								
	住民参加プロセス	・安達駅東地区開発協議会の活動を実施した。 ・安達駅西地区整備協議会の活動を実施した。		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● ・今後も地域住民や安達支所との連携を図りながら、整備後の利用状況について把握し、随時改善の方向性を検討する。				
	持続的なまちづくり体制の構築	・地域住民との協議により「安達駅東地区地区計画」を平成26年1月に策定した。 ・安達駅を核とし市民が参加しやすいイベントを開催した。		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● ・「安達駅東地区地区計画」を適切に運用する。 ・今後も安達駅西地区整備協議会を中心としたイベント開催の継続を検討する。				

様式2-2 地区の概要

安達駅周辺東地区（福島県二本松市）都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値
大目標：安全、安心、快適に暮らせる賑わいと活力のあるまちづくりを推進する。 目標1：交通機能の強化による、安全安心と利便性の向上及び交通渋滞の緩和を図る。 目標2：駅周辺にふさわしい土地利用に伴う人口増加を図る。	交通アクセス満足度アンケート調査	単位：％ 61 H23	41 H28	31 H29
	駅利用満足度アンケート調査	単位：％ 57 H23	37 H28	29 H29
	西口駅前広場渋滞調査	単位：m 100 H23	70 H28	45 H29



まちの課題の変化

- ・国道4号線など周辺幹線道路から駅に直結し、見通しが良く、十分な幅員を有した道路として、東西線、硫黄田・岩倉線、東西自由通路、安達駅・遠北線、南北線、東口連絡線、西口駅前広場線が整備された。
- ・十分な幅員の油王田踏切が整備され、鉄道を横断する交通の円滑化が図られた。また、駅の東西自由通路、東西駅前広場、周辺道路の整備により、駅東地区から直接駅にアクセスできるようになったため、鉄道を横断する必要のある交通が減少し、交通渋滞が緩和した。
- ・駅の東西自由通路、東西駅前広場、周辺道路の整備により、駅東地区から直接駅にアクセスできるようになり、駅利用の利便性が向上した。
- ・都市基盤施設として、道路及び上下水道が整備され、駅周辺東地区への個人宅を中心とした建築物等の立地が進んでおり、人口増加傾向にある。

今後のまちづくりの方策（改善策を含む）

- ・駅前広場や道路施設、東西自由通路等の適切な維持管理を推進し、快適で安全安心な交通環境・歩行空間の維持に努める。
- ・賑わいのあるまちづくりに向けて安達支所と連携しながら安達駅西地区整備協議会を支援し、当該活動の活性化を図る。また、民間活力を活用して商業施設の充実を促進する。
- ・駅前広場等を活用し、駅周辺でのイベント等の開催を促進し、安達駅周辺東地区の魅力向上を図る。

都市再生整備計画事業 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 都市再生整備計画事業評価委員会の審議

- 添付様式8—都市再生整備計画事業評価委員会の審議

(7) 有識者からの聴取

- 添付様式9—有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●	—	—	—
B. 目標を定量化する指標		●	—	—	—
C. 目標値		●	—	—	—
D. その他()		●	—	—	—

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

(金額の単位は百万円)

基幹事業		当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
事業	事業箇所名	事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	東西線	157.0	L=220.0m	44.7	L=150.1m	事業内容の精査による数量の見直し	影響なし	●	
道路	硫黄田・岩倉線	32.0	L=160.0m	132.0	L=400.0m	交通機能の強化を図るため、国道4号線までアクセスできるよう、整備範囲を追加	指標1(交通アクセス満足度)に関係するが、指標及び数値目標は据え置く	●	
道路	油王田踏切	267.0	L=20.0m	80.6	L=20.0m			●	
道路	東西自由通路	960.0	L=40.0m	800.0	L=52.5m	事業内容の精査による数量の見直し	影響なし	●	
道路	安達駅・遠北線	-	-	164.1	L=730.0m	交通機能の強化を図るため、事業を新たに追加	指標1(交通アクセス満足度)に関係するが、指標及び数値目標は据え置く	●	
道路	南北線	530.0	L=760.0m	337.0	L=745.8m	事業内容の精査による数量の見直し	影響なし	●	
道路	東口連絡線	390.0	L=60.0m A=7,000㎡	342.0	L=120.0m A=4,000㎡	事業内容の精査による内容、数量の見直し	指標1(交通アクセス満足度)に関係するが、指標及び数値目標は据え置く	●	
道路	西口駅前広場線	-	-	242.4	L=200.0m	地域生活基盤施設事業から移行	事業の組み替えであり、影響なし	●	
公園									
河川									
下水道									
駐車場有効利用システム									
地域生活基盤施設	東口駐車場	-	-	20.0	A=3,000.0㎡	東口連絡線の道路事業を一部組み替え	事業の組み替えであり、影響なし	●	
地域生活基盤施設	西口駅前広場	281.0	A=3,500㎡	-	-	西口駅前広場線として、道路事業に移行	-	-	
高質空間形成施設	公衆トイレ	-	-	63.0	A=90.0㎡	より魅力ある駅前空間の形成を図るため、事業を新たに追加	指標2(駅利用満足度)に関係するが、指標及び数値目標は据え置く	●	
高質空間形成施設									
高次都市施設									
既存建造物活用事業									
都市再生交通拠点整備事業									
土地区画整理事業(都市再生)									
住宅市街地総合整備事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)	従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)		目標達成度※2		1年以内の達成見込みの有無			
			基準年度	基準年度	基準年度	目標年度			あり	なし				
指標1 交通アクセス満足度アンケート調査	<従前値> 過年度の駅利用者アンケート調査(平成23年度実施)の結果から、交通アクセスに関する不満度の割合(安達駅周辺の道路状況について、「やや不満」「不満(不十分)」と回答した割合)(61%)を従前値として設定した。 <評価値> ・計測時点で東西自由通路、駅西口広場、駅東口広場は整備されており、安達駅利用者を対象として、従前と同様のアンケート調査を実施する。 ・当該結果より従後値を算出して、その値を持って確定値とする。 ・計測時点で東西自由通路、駅西口広場、駅東口広場は整備されており、一定の効果が見込めると想定されるため、安達駅利用者を対象として、従前と同様のアンケート調査を実施する。 ・従前と同様の設問「安達駅周辺の道路状況について満足していますか。(踏切、歩道、車道、道路幅等)」を設けたアンケート調査を安達駅東西自由通路上で実施(調査員が通行者に調査票を配布、東西自由通路上に設置した調査票回収箱にて回収する。 ・「やや不満」「不満(不十分)」と回答した割合を算出し、評価基準日【平成30年3月31日】の評価値(確定値)とする。	-	-	6	H23	41	H28	モニタリング	-	-	モニタリング	-		
								事後評価	確定 ●	見込み	31	事後評価	○	
指標2 駅利用満足度アンケート調査	<従前値> 過年度の駅利用者アンケート調査(平成23年度実施)の結果から、駅利用に関する不満度の割合(安達駅について、「やや不満」「不満(不十分)」と回答した割合)(57%)を従前値として設定した。 <評価値> ・計測時点で東西自由通路、駅西口広場、駅東口広場は整備されており、安達駅利用者を対象として、従前と同様のアンケート調査を実施する。 ・当該結果より従後値を算出して、その値を持って確定値とする。 ・計測時点で東西自由通路、駅西口広場、駅東口広場は整備されており、一定の効果が見込めると想定されるため、安達駅利用者を対象として、従前と同様のアンケート調査を実施する。 ・従前と同様の設問「安達駅(駅前広場、ホーム、トイレ、駐車・駐輪場を含む)について満足していますか。」を設けたアンケート調査を安達駅東西自由通路上で実施(調査員が通行者に調査票を配布、東西自由通路上に設置した調査票回収箱にて回収する。 ・「やや不満」「不満(不十分)」と回答した割合を算出し、評価基準日【平成30年3月31日】の評価値(確定値)とする。	-	-	57	H23	37	H28	モニタリング	-	-	モニタリング	-		
								事後評価	確定 ●	見込み	29	事後評価	○	
指標3 西口駅前広場渋滞調査	<従前値> ・安達駅西口駅前広場の交通渋滞時の渋滞延長(朝夕ピーク時の西口駅前広場への送迎車両の停車台数:100m)を従前値として設定した。 <評価値> ・計測時点で東西自由通路、駅西口広場、駅東口広場は整備されており、従前値との比較対象となる西口駅前広場において、交通量ピーク時の渋滞長を計測し、その値を持って確定値とする。 ・計測時点で東西自由通路、駅西口広場、駅東口広場は整備されており、従前値との比較対象となる西口駅前広場において、従前値と同様の方法で渋滞長の調査を実施する。 ・平日の朝夕交通量ピーク時(朝は7:00~8:00、夕方は17:30~18:30)の前後3時間に調査員を配置し、西口駅前広場および周辺道路への車両停車台数をカウントする。 ・車両1台あたり5mとして渋滞延長に換算する。 ・当該結果をもって、渋滞長の従後の確定値とする。	-	-	100	H23	70	H28	モニタリング	-	-	モニタリング	-		
								事後評価	確定 ●	見込み	45	事後評価	○	
指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)						その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)							
指標1	・駅前広場・駅周辺道路整備等により駅への交通アクセス性が向上し、事後の交通アクセス満足度アンケートで目標値を達成したため、「○」とした。						-							
指標2	・東西の駅前広場、自由通路、東口駐車場および公衆トイレ整備により、駅利用者の利便性が向上し、事後の駅利用に関する満足度アンケートで目標値を達成したため、「○」とした。						-							
指標3	・東西の駅前広場整備及び自由通路整備により、送迎等の車両が東西に分散するとともに、駅前広場内に停車できるようになり、交通渋滞が緩和し、事後の渋滞長調査で目標値を達成したため、「○」とした。						-							

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○:評価値が目標値を上回った場合

△:評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×:評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指標		データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)		本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)	
			基準年度		基準年度						
その他の数値指標1	地区内新築件数	件	<従前値> ・平成23年(1年間)の「建築確認台帳」により、従前値を把握した。 <評価値> ・平成29年(1年間)の「建築確認台帳」により、評価値を把握した。			0	H23	モニタリング		・地区の整備に伴う効果として、新築件数の増加が見られ、人口増加による賑わいを表している指標としてふさわしいと考えられる。	・目標2「駅周辺にふさわしい土地利用に伴う人口増加を図る。」に対する指標として追加する。
								事後評価	確定 ● 見込み		
その他の数値指標2	地区内民間開発許可件数	件	<従前値> ・平成23年度における開発許可資料により、従前値を把握した。 <評価値> ・平成29年度(平成27年4月～平成30年1月の累積)における開発許可資料により、評価値を把握した。			0	H23	モニタリング		・地区の整備に伴う効果として、民間開発の増加が見られ、地区の賑わいを表している指標としてふさわしいと考えられる。	・地区の賑わいととも、目標2「駅周辺にふさわしい土地利用に伴う人口増加を図る。」に対する指標として追加する。
								事後評価	確定 ● 見込み		
その他の数値指標3								モニタリング			
								事後評価	確定 見込み		

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
なし	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
安達駅東地区開発協議会の活動	予定どおり実施した	● 【実施頻度】年間1～2回 【実施時期】平成20年1月～平成29年6月 【実施結果】整備に当たり、地元に対して、整備目的や計画図面等を説明し意見交換を行った。これらにより区内居住者の意向を把握するとともに、住民への理解を促すことができた。	・今後も地域住民や安達支所との連携を図りながら、整備後の利用状況について把握し、随時改善の方向性を検討する。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
安達駅西地区整備協議会の活動	予定どおり実施した	● 【実施頻度】年間1～3回 【実施時期】平成21年7月～平成29年6月 【実施結果】整備に当たり、地元に対して、整備目的や計画図面等を説明し意見交換を行った。これらにより区内居住者の意向を把握するとともに、住民への理解を促すことができた。	・今後も地域住民や安達支所との連携を図りながら、整備後の利用状況について把握し、随時改善の方向性を検討する。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名・組織の概要	
市と地元生活者などが一体となったまちづくりの展開	予定どおり実施した	● ・市では宅地化を計画的に誘導し、合理的な土地利用計画のもとに建築物の基準を定めて、安全・安心のまちづくりを実現するため、地域住民との協議により「安達駅東地区地区計画」を平成26年1月に策定した。	-	・「安達駅東地区地区計画」を適切に運用する。
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			
安達駅を核とし市民が参加しやすいイベント開催	予定どおり実施した	● ・平成29年5月に「安達駅旧駅舎お別れ会」のイベントを開催し、地区協議会を中心として出店や踊り等を行った。	安達駅東地区開発協議会 安達駅西地区整備協議会	・今後も安達駅西地区整備協議会を中心としたイベント開催の継続を検討する。
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内評価委員会(庁内の横断的な組織)	主管課:都市計画課 会議構成:建設部長、企画財政課長、生活環境課長、福祉課長、商工課長、土木課長、都市計画課長、建築住宅課長、水道課長、下水道課長、安達支所地域振興課長、安達支所産業建設課長、教育総務課長	平成30年3月	都市計画課市街地整備係

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1	指標2	指標3	その他の数値指標				
指標名		交通アクセス満足度アンケート調査	駅利用満足度アンケート調査	西口駅前広場渋滞調査	地区内新築件数 地区内民間開発許可件数				
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	道路(東西線整備事業)	◎	駅前広場を含む駅周辺の道路整備により、安達駅周辺東地区の回遊性が向上し、円滑な交通処理が行われるようになった。また、歩行者にとっても安全・安心に通行できる歩道等が確保されたことから、交通アクセスについて不満度が低下し、高い満足度が得られた。	○	東西の駅前広場、自由通路、東口駐車場および公衆トイレ整備により、東西両側から直接駅にアクセスできるようになった。このことにより、駅の拠点機能が強化され、利用者の利便性が向上したことから、駅利用に関して不満度が低下し、高い満足度が得られた。	◎	従前、駅に出入りできるのは西口だけで、西口駅前に駅送迎などの車両が集中するとともに、広場が未整備であったため、停車車両が路上にあふれ、ピーク時には慢性的な渋滞状況を呈していた。	○	駅の利便性向上、駅周辺東地区の道路・上下水道等の基盤整備の進展により、地区内における年間新築件数や開発許可件数が増加した。
	道路(硫黄田・岩倉線整備事業)	◎		○		○			
	道路(油王田踏切整備事業)	○		◎		◎			
	道路(東西自由通路整備事業)	○		◎		◎			
	道路(安達駅・遠北線整備事業)	◎		○		○			
	道路(南北線整備事業)	◎		○		○			
	道路(東口連絡線整備事業)	◎		○		○			
	道路(西口駅前広場線整備事業)	◎		○		◎			
	地域生活基盤施設(東口駐車場)	○		○		○			
高質空間形成施設(公衆トイレ)	—	◎	○						
提案事業	地域創造支援事業(上水道 東地区)	—	—	—	—	◎	東西の駅前広場整備及び自由通路整備により、送迎等の車両が東西に分散するとともに、駅前広場内に停車できるようになり、市道の交通渋滞が緩和し、渋滞長が減少した。	◎	
	地域創造支援事業(下水道 東地区)	—	—	—	—	◎			
	地域創造支援事業(駅施設の移設 JR安達駅)	—	○	—	—	○			
関連事業									

※指標改善への貢献度

- ◎: 事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- : 事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △: 事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	交通アクセス満足度アンケート調査	駅利用満足度アンケート調査	西口駅前広場渋滞調査	地区内新築件数 地区内民間開発許可件数
駅前広場を含む駅周辺道路の適切な維持管理を推進し、円滑な交通処理や歩行者空間の維持に努め、交通アクセス性の維持に努める。	東西の駅前広場、自由通路、東口駐車場および公衆トイレの適切な維持管理を推進し、駅の拠点機能の維持・向上に努め、駅利用の利便性の維持・向上に努める。	東西の駅前広場、自由通路、駅周辺道路の適切な維持管理を推進し、円滑なアクセス環境の維持に努める。また、長時間の駐停車車両は、適切な案内表示等により、駅前広場内駐車スペースへの誘導を図る。	整備された都市基盤施設の適切な維持管理に努めるとともに、「安達駅東地区地区計画」等により計画的な宅地化の誘導を図っていく。	

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別													
指標名													
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業	道路(東西線整備事業)												
	道路(硫黄田・岩倉線整備事業)												
	道路(油王田踏切整備事業)												
	道路(東西自由通路整備事業)												
	道路(安達駅・遠北線整備事業)												
	道路(南北線整備事業)												
	道路(東口連絡線整備事業)												
	道路(西口駅前広場線整備事業)												
	地域生活基盤施設(東口駐車場)												
提案事業	高質空間形成施設(公衆トイレ)												
	地域創造支援事業(上水道 東地区)												
	地域創造支援事業(下水道 東地区)												
関連事業	地域創造支援事業(駅施設の移設 JR安達駅)												

※目標未達成への影響度

- ××: 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
- ×: 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
- △: 数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
- ー: 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類

- 分類Ⅰ: 内的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅱ: 外的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅲ: 外的な要因で、予見が不可能な要因。
- 分類Ⅳ: 内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)			
------------------	--	--	--

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内評価委員会(庁内の横断的な組織)	主管課:都市計画課 会議構成:建設部長、企画財政課長、生活環境課長、福祉課長、商工課長、土木課長、都市計画課長、建築住宅課長、水道課長、下水道課長、安達支所地域振興課長、安達支所産業建設課長、教育総務課長	平成30年3月	都市計画課市街地整備係

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
JR安達駅と連絡する道路では、駅前直結する幹線道路が未整備であると共に、その周辺道路も幅員が狭く、見通しも悪い	・国道4号線など周辺幹線道路から駅に直結し、見通しが良く、十分な幅員を有した道路として、東西線、硫黄田・岩倉線、東西自由通路、安達駅・遠北線、南北線、東口連絡線、西口駅前広場線が整備された。		
鉄道を横断する踏切が限られていることから、朝夕の通勤・通学時に慢性的な交通渋滞の発生	・十分な幅員の油王田踏切が整備され、鉄道を横断する交通の円滑化が図られた。また、駅の東西自由通路、東西駅前広場、周辺道路の整備により、駅東地区から直接駅にアクセスできるようになったため、鉄道を横断する必要のある交通が減少し、交通渋滞が緩和した。		
JR安達駅利用について、東側からの利用者は、鉄道を横切るために大きく迂回して西側からの利用しか出来ないことから、東口駅前広場整備と共に東西自由通路の設置による利便性の向上	・駅の東西自由通路、東西駅前広場、周辺道路の整備により、駅東地区から直接駅にアクセスできるようになり、駅利用の利便性が向上した。		
現在、大半が農地であるが、一部には既存宅地も見られることから、駅周辺にふさわしい将来の土地利用(宅地化)がなされ人口増加による賑わいのあるまちづくり	・都市基盤施設として、道路及び上下水道が整備され、駅周辺東地区への個人宅を中心とした建築物等の立地が進んでおり、人口増加傾向にある。		

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
A欄 効果を持続させるため に行う方策	駅周辺交通基盤や駅東西自由通路等の適切な維持管理	・駅前広場や道路施設、東西自由通路等の適切な維持管理を推進し、快適で安全安心な交通環境・歩行空間の維持に努める。	
	地区の活性化	・賑わいのあるまちづくりに向けて、安達支所と連携しながら安達駅西地区整備協議会を支援し、当該活動の活性化を図る。また、民間活力を活用して商業施設の充実を促進する。	地域づくり支援事業(地元団体による活動の支援)
	交流・憩い空間の充実	・駅前広場等を活用し、駅周辺でのイベント等の開催を促進し、安達駅周辺東地区の魅力向上を図る。	地域づくり支援事業(地元団体による活動の支援)

	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
B欄 改善策 ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策			

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

● 交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
● 事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
● 数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
● 数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
● 残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

- ・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
- ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

- ・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無	フォローアップ計画		
			年度	年度	年度	年度					予定時期	計測方法	その他特記事項
指標1	交通アクセス満足度アンケート調査	%	61	H23	41	H28	確定 ●	31	○	あり	なし		
							見込み						
指標2	駅利用満足度アンケート調査	%	57	H23	37	H28	確定 ●	29	○	あり	なし		
							見込み						
指標3	西口駅前広場渋滞調査	m	100	H23	70	H28	確定 ●	45	○	あり	なし		
							見込み						
指標4							確定			あり			
							見込み						
指標5							確定			あり			
							見込み						
その他の数値指標1	地区内新築件数	件	0	H23			確定 ●	16			なし		
その他の数値指標2	地区内民間開発許可件数	件	0	H23			確定 ●	7			なし		
							見込み						
その他の数値指標3							確定						
							見込み						

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	・事前評価時の記録が残っており、指標の内容や調査方法が明確であったため、事後評価のアンケート調査等の作業が円滑に実施できた。	・事前評価時の資料を保管しておくことが重要である。
	うまくいかなかった点		
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	・事業内容と数値目標の関係が明確で整合が図られており、整備の効果が評価値に現れたため、指標として有効であったと考えられる。	・指標や評価時期を決定する際には、目標・事業内容との整合性を考慮して検討することが望ましい。
	うまくいかなかった点	・整備事業の実施時期が変更となったため、評価値を把握するためのアンケート調査の実施時期が変更となった。	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	・駅周辺整備について地区協議会等の開催を通じて、地区住民との意見交換の場を設けた。その結果、事業に対して住民のニーズの把握・反映がなされるとともに、地区協議会の活動が促進された。	・住民参加は、まちづくり事業を円滑に推進する上で有効である。
	うまくいかなかった点		
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点		
	うまくいかなかった点		
その他	うまくいった点		
	うまくいかなかった点		

添付様式6－参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

今後、事後評価を予定する地区
二本松城跡周辺地区

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市のホームページに掲載	平成30年4月23日～5月22日 (30日間)	平成30年4月23日～5月22日 (30日間)	担当課への持参(平日のみ)、郵送、FAX、電子メール	都市計画課 市街地整備係
広報掲載・回覧・個別配布					
説明会・ワークショップ					
その他					

住民の意見	特になし				
-------	------	--	--	--	--